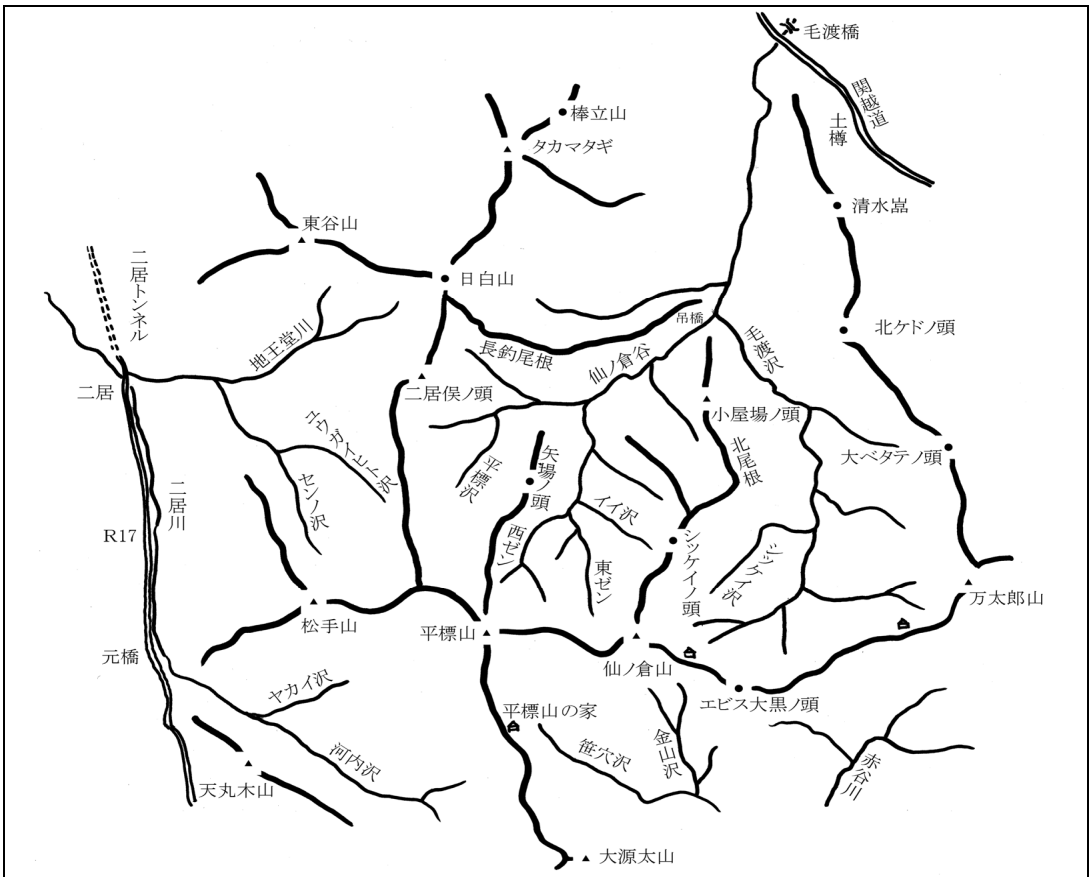
3月14日、11:00過ぎ、平標山に6パーティー17名が集中

３月度会山行　谷川連峰・平標山集中



谷川連峰西部概念図　（作図：棚橋）

担当:棚橋、中村、石井

【日時】2010年3月13日～14日

【行動パーティーと踏破ルート】

A．スキー（ゆったり系）鈴木(L)、佐藤、藤岡、植島
　二居～登山道入口付近(泊）～センノ沢～途中より左岸尾根～松手山（往復）

B．スキー（しっかり滑る系）中村(L)、田邉、佐貫、利香
　元橋～ヤカイ沢左岸尾根～平標山～仙ノ倉山～仙ノ倉北尾根滑走～イイ沢～

http://www.tomanokaze.dojin.com/

平標沢左岸尾根登り返し～1582（～平標山往復）～ユウガイヒト沢～二居

C．スキー（定着型）石井(L)、木下

元橋～1776の尾根～平標小屋（泊）～（笹穴沢源頭滑降）～平標山～仙ノ倉山～シッケイ沢～毛渡沢橋

D．雪稜（初級）棚橋(L)、長谷川、國田

土樽～仙ノ倉山北尾根～仙ノ倉山～平標山～1776の尾根～元橋

E．縦走（歩き）栗原（L)、斎藤(良)、金沢、福永

土樽～長釣尾根～日白山～平標山～1776の尾根～元橋

F．日帰り（歩き）大田原(L)、山口、高橋（途中まで）

元橋～ヤカイ沢左岸尾根(1700m付近)～平標山（往復）

G．日帰り（スキー）横山(L)、次郎

元橋～1776の尾根～平標山～ヤカイ沢～元橋

＜総括＞

平標・仙ノ倉周辺での会山行は、実はちょうど10年前となる2000年の同時期に計画されたものの、予報悪化のため玉原と上州武尊に転進した経緯があり、それ以来の懸案であった（個人的に)。その時とは活躍する会員の顔ぶれも変わり、その事を覚えている会員も既に少なかろうと思うが、スキーにも、縦走にも、雪稜にも良しで、日帰りパーティーも参加可能、これだけ集中に適した山域でありながらも行われてこなかった理由として、天候条件の悪さ、適期の短さが挙げられると思う。この辺りは冬型ではもちろんのこと、日本海側だけが好天となってもダメで、移動性高気圧に上手く当たらないとスッキリ晴れない。近年では時期が遅いと融雪が早くてダメということもあり、会山行として選ぶにはハイリスクであったという点は否めない。

そんな中、山頂集中にこだわった計画を出したことに、当初反発の声が上がってきたのも当然のことと思う。その声には、「集中は『努力義務』であり、安全第一にパーティーやルート状況を加味してリーダーが判断し、うまく時間に到達できるよう（寒い山頂で待たせない)、『コントロール』するよう、『ゲーム感覚』でやってほしい旨を説いた。実際、Aパーティーはメンバーの状況を考慮し、山頂には集合できなかったが、その判断が間違っているとは思わない。

結果的に土曜日は前線の通過で悪天であったが、集中時間の平標山周辺は回復して晴天に包まれた。抜けるような青空と白一色の山頂に辿り着くと、時間が近づくにつれて四方からやってくるメンバーに気が逸る。最後はやっぱり、の次郎さんを

迎え入れ、少々遅れはしたものの、山頂に不思議な一体感が生まれたように思う。常日頃、特に積雪期の活動（指向）にバラツキが指摘される当会の現状からして、今回の集中をトピックとしたかったのだが、おこがましい願いだろうか。欲を言えばもう少し参加人数が多く、エビス大黒の雪稜や赤谷川源頭のスキーなどを加えてみたかったが、会の現状からすれば及第点であると思う。

これで3月（積雪期）の会山行担当は3年連続となったのだが、実は前の2年では異動やら何やらで不参加であった。ようやく三度目の正直で本人も参加できた上に、良い形で締めくくりができたことで、喜びもひとしおである。

（石井）

＜担当の感想＞

「3/14　11:00　平標山集中」という実にシンプルな旗印の下、パーティリーダーを中心にメンバー全員で予定する山行スタイルおよびルートを以て、「どうすれば達成できるか？」知恵を出し合って計画し、山行中も気象条件や雪の状態、メンバーのコンディションを鑑みて行動を矯正しながら進めるという「約束事」および「取り組み方」につきましては、集会やトマＭＬにてお伝えした通りです。

それが予定通りに運んだ場合、または辛うじて間に合った場合、それとも努力の甲斐なく叶わなかった場合等、結果は様々だと思いますが、それを今後の山行に活かして頂くことが我々担当の掲げた趣旨であり、願いでもあります。

また、そういった山行の中から連帯感（我々のパーティを例に挙げれば、13日16:00の定時交信で中村パーティから得られた「仙ノ倉山～平標山間は所々で夏道が現れている」という情報、14日当日の視界が悪い中、薄らではあったがスキートレースの一部が散見できたことは、やや強い風の中での行動にも拘わらず不安が少し取り除かれた）みたいなことを感じ取って頂ければ、担当冥利に尽きます。

私個人としましては、「会山行＝担当に依るお膳立て山行」の脱却が前々からの課題であったので、いろいろ試行錯誤させて頂きました。それから、会山行の度に取り沙汰される「ドタキャン」につきましては、私は「やむを得ないこと」と捉えており、担当という立場からすると「参加できなかった人が悔しがるような会山行」にしたいと常々考えています。

最後に、今回もこの会山行のためにＭＬを立ち上げましたが、その数は186件を数えました。そして、その始めに掲げた「担当は大変だけど、なるべく楽しみながら」ということは実行できたので、とても満足しています。

パーティリーダーの方、改めて「お疲れ様でした！」

（棚橋）

３月の会山行担当は今年で３年目。一昨年の巻機は快晴の下で、昨年の南会津は土曜日の天気が悪く全パーティ日曜日帰りに変更しての実施だった。

今回の会山行は、過去２回の会山行と異なり、“山頂集中”にこだわった会山行であった。「しっかり滑る系」のルート決定を会山行係の中で一任されたものの、山頂集中にこだわると、「しっかり滑る」ルートができない。パーティメンバーに、集中にはこだわらない手もあるのではと打診したが、「それでは個人山行と変わらない」と一蹴され、いろいろ考えた結果、２回平標山頂を踏むルートとなった。

このような経緯があったので、個人山行とは違う“山頂集中”にこだわった。雪の状態が悪く、集中時間１時間半前にようやく主稜線1582に到着。山頂まで標高差は400mしかないが、だらだらしたルートだったので、「最大限努力する」を胸に、メンバーは「休憩」を忘れ黙々と歩いた。そして時間ぎりぎりで、集中の写真に入ることができた。テーマを決めて、それに情熱を傾けるのは楽しいと、改めて実感した会山行だった。

（中村）

会山行Ａパーティ

松　手　山

鈴木

【日　　時】2010年3月13日（土）～14日（日）
【メンバー】鈴木（Ｌ）佐藤(耕)　藤岡　植島

　このＡパーティはスキーのゆったり系ということで編成された。無理をせずという気持ちは計画が発表されたときからあったが、直前の一週間はとても忙しくなり、睡眠時間も少なくなったこともあり、ちょうどいいパーティになったという気もしていた。
同じような状況には耕至君もなっていたこともあり、「無理をせず」というのは何も問題なく共通認識となった。
　土曜の天気予報は雨。元橋へのパーティを送ってきた佐藤(耕)・藤岡君と田代スキー場で合流。二居から歩き始めて 1 時間ちょっとのところで雨が降り始めたので停滞を決め込んだ。あとはひたすら宴会と睡眠不足を取り戻すべくうたた寝等々。
　明日の集合に間に合うように起床は 3 時半と決め就寝。日曜日は全国的に晴れるとの予報の割には、夜半は結構風が強く、少し離れたところにある送電線の鉄塔は、強い風が吹くたびに鳴っていた。

　予定通り起床し準備を整えて出発できる状態になったが、さすがにまだ暗く早すぎるので少し調整して出発。この時点でも予報ほど天気は好転しておらず、風も強い。いろんな懸念を抱きながらセンノ沢沿いに進み、目論見としては行けそうなら東側の尾根にダイレクトに行こうという考えもあったが、途中から松手山方面へ目指した。高度を上げるに従ってとても素晴らしブナ森になった。時折太陽も顔を出すが、東の稜線付近は早い雲が流れる。
　松手山に到着したのは 9 時過ぎ。平標山方面を見ると手前のピークを含め、早く流れる雲の中。時間的には間に合うが気持ちは躊躇していた。正直行きたくないという気持ちもあったが、このパーティは帰りに滑ってこられるのかという懸念も。
　スキーはスキーアイゼンを着けたり、ピッケルアイゼンを使えば登ることは出来る。しかし問題はそのあとで、滑ることが出来なかったり、滑落する可能性もある。まさに「行きはヨイヨイ、帰りは怖い」状態になる。一応形通りメンバーにはどうしたいかは尋ねたが、私の気持ちはこれから先に行くつもりはなかった。

無線が一番通じた中村君へ集合地に行かない旨の連絡をし、11 時近くまで松手山の山頂付近でツエルトをかぶっていた。下山する頃はうらやましくなるほど快晴になり、かすかに人影らしいものが稜線付近に望め、平標山まですっきり見えた。しかし、判断としてはこれでいいと思いつつ、割り切れない雲がどんよりと脳裏を覆う。

さていよいよ滑り。素晴らしいブナ林の中を快適に・・・とは行かない。風が吹いていたのと、日が差してそんなに時間がたっていないので、表面は堅く中は柔らかい超モナカ状態。キックターンでの方向転換の繰り返しとなり,とても快適な滑りとは言えなかった。結局登り 3 時間のところを 2 時間かけておりるという、スキーでは考えられない時間となった。

あえて山頂集中のことについて

今回の平標山会山行で、担当の皆さんと各パーティの頑張りにより、当パーティ以外は全員山頂に集中出来た。我々が行けば完璧な会山行となったといえるだけに、この点は申し訳ないと思っています。

ただあえて言えば、このスキーパーティは山頂に行かなくてよかったと今でも思っている。テントで寝ているときから、予報の割には風の強いのが気になっていた。松手山に着いたとき、目指す平標山方面は流れる雲の中。時間的には間に合うと思ったが、おそらく帰りはアイスバーンで滑られないか、下山にかなり時間がかかると思われた。

担当の皆さんの熱意と努力は感じていた。会山行で全員山頂集中して成功裏に終え、みなで喜びを分かち合いたいという気持ちも十分あった。同時に「各リーダーの判断で」ということだったので、集中山行ではあるけれど行かないことを選択した。

以前事故報告書の考察に次の三項目をあげた。「無事故が長く続いたとき」「判断なしに先導者に従う」「目標への過剰意欲」。それぞれがどの場合にも当てはまるわけではないし、レベルの違いによっては当てはまらない場合もある。今回は「目標への過剰意欲」に当たるのではないかと考えた。今回このパーティが山頂に行けたのは、朝起きたときに風もなく、登っているときに青空で気温も上がり、滑り始めるときに堅さがゆるむような状態でないと、前の週に気温が上がって一度とけていたから無理だったと思う。3 月と 9 月の会山行は、条件によってはレベルが上がることになるので、このようなことを承知しておくことも必要だろう。当然のことながら、ひとパーティだけ集中していないのだから、皆さんの晴れやかな表情とは裏腹に、達成感はまったくない。ただ、ケガもなく無事に下山し、温泉で集合できた安堵感は残った。まぁ、これも会山行だろう。

【コースタイム】

3 月 13 日　二居　9:30～登山道入り口付近　11:00

3 月 14 日　登山道入り口付近　6:00～センノ沢～途中より左岸尾根
～松手山 9:10- 11:00～左岸尾根～センノ沢～幕営地 12:50～二居 13:20

【地形図】三国峠、土樽

会山行Bパーティ：標高差1000m２本の周遊ルート

谷川　仙ノ倉～イイ沢、平標～ユウガイヒト沢

中村　弘

【日時】2010年3月13日(土)～14日(日)
【メンバー】中村(L)、田邉(一)、佐貫、田辺(利)

このパーティのコンセプトは「しっかり滑る系」。全装背負いながらも、滑りも両立できるルートを考えた。当初の計画では、1日目にシッケイ沢を滑り、登り返してダイコンオロシ沢を滑って泊であったが、さすがに欲張りすぎた。結局、仙ノ倉山頂からイイ沢に滑り込むサブルートとなったが、他は計画通り貫徹できた。

【1日目】3月13日(土)：［曇／雨］

元橋を石井Pと共に出発。ヤカイ沢出合で彼らと別れ、明日の集中での再会を約束する。

仙ノ倉山頂

ヤカイ沢には、今日はまだ誰も入っていないようで、チビラッセルとなる。沢型から尾根に乗るころ、心配された寒冷前線の通過で雪が降ってくるが、問題ない程度であった。正午に平標山頂に立つ。ピーク写真は明日に取っておいて、仙ノ倉を目指す。

一昨年に来たときには、ここから仙ノ倉までは真っ白だったような気がするが、今年はすでに藪が出ている。登山道を板を背負って登る。そのせいか、仙ノ倉まで少し時間が掛かりすぎたようだ。山頂到着が1時半。さすがにシッケイ沢を滑って登り返すのは難しそうなので、サブルート案のイイ沢を滑って平標沢に向かうことになった。

山頂直下の北尾根は藪が出ており、迂回とトラバースをしての滑り出しとなった。霧のため視界が良くないが、GPSの高度計を駆使して、間違えることなくイイ沢のドロップポイントに。

上部はやや急であるが、クラストしていないので、問題なく滑れる。少し高度を下げると視界が開け、周りの岩峰が見渡せる。なかなかのロケーションだ。ねっとり雪なのがいまいちであるが、雪が良ければ満足できるルートであろう。

西ゼンからの谷に合流し、平標沢出合で水を採って、テン場を探す。尾根取り付

きまで行きたかったのだが、時間が4時を過ぎてしまったので、平標沢の途中での幕となった。

【2日目】1月10(日)：［曇⇒晴］

会山行の集中のため、今日は11時までに平標山頂に行かねばならない。少し早起きをして、7時前に出発。平標沢左岸尾根に取り付き、黙々と登る。アイスバーンの上に昨晩の雪がうっすらと積もり、シールが効きにくい。特に田邉さんのシールの効きが悪いようで、苦労している。

主稜線に付いたのが9時半。山頂まではちょうど400mだが、だらだらとした登りなので、集中に間に合うかは微妙な時間だ。とにかくがんばってみよう。稜線上には、栗原Pの付けたトレースが伸びている。会山行ならではだ。これまでの無線交信から、栗原Pは1時間前にここを通過していると思われる。所々急なところはスキーでは行けないので、巻いて通過する。1757の手前で10時の無線交信となった。「間に合わないかもしれないが、最大限努力する」と伝え、先を急ぐ。この辺りから雪が固くなり、登りやすくなった。

松手山からの尾根と合流する場所で、10時半。山頂も見えてきた。何とかぎりぎり間に合うかも。最後は、競争するかのような勢いで、4人とも皆の待つ山頂へと急ぐ。

11時（少し過ぎていたかも）ジャストに、山頂に立つ。いつものように風は強いが、日が射しており耐えられない寒さではない。最後の横山Pを待ち、集合写真となる。寒いので、すぐに解散となり、各Pが散らばっていく。我々は登ったルートをそのまま1757まで下り、ユウガイヒト沢を滑ることになっている。

松手山からの尾根と合流点で2時間半ぶりの休憩。さすがに皆おなかが空いているようだ。しっかりと休憩を取ってから、ユウガイヒト沢のドロップポイントへ。

2年前に滑った時には激パウだったが、今日はカッチンカッチンのクラストバーン。上部は急であるため、緊張感のある滑りとなる。エッジングをすると板がガタガタして、十分なエッジングにならず、1ターンごとに停止せざるを得ない。

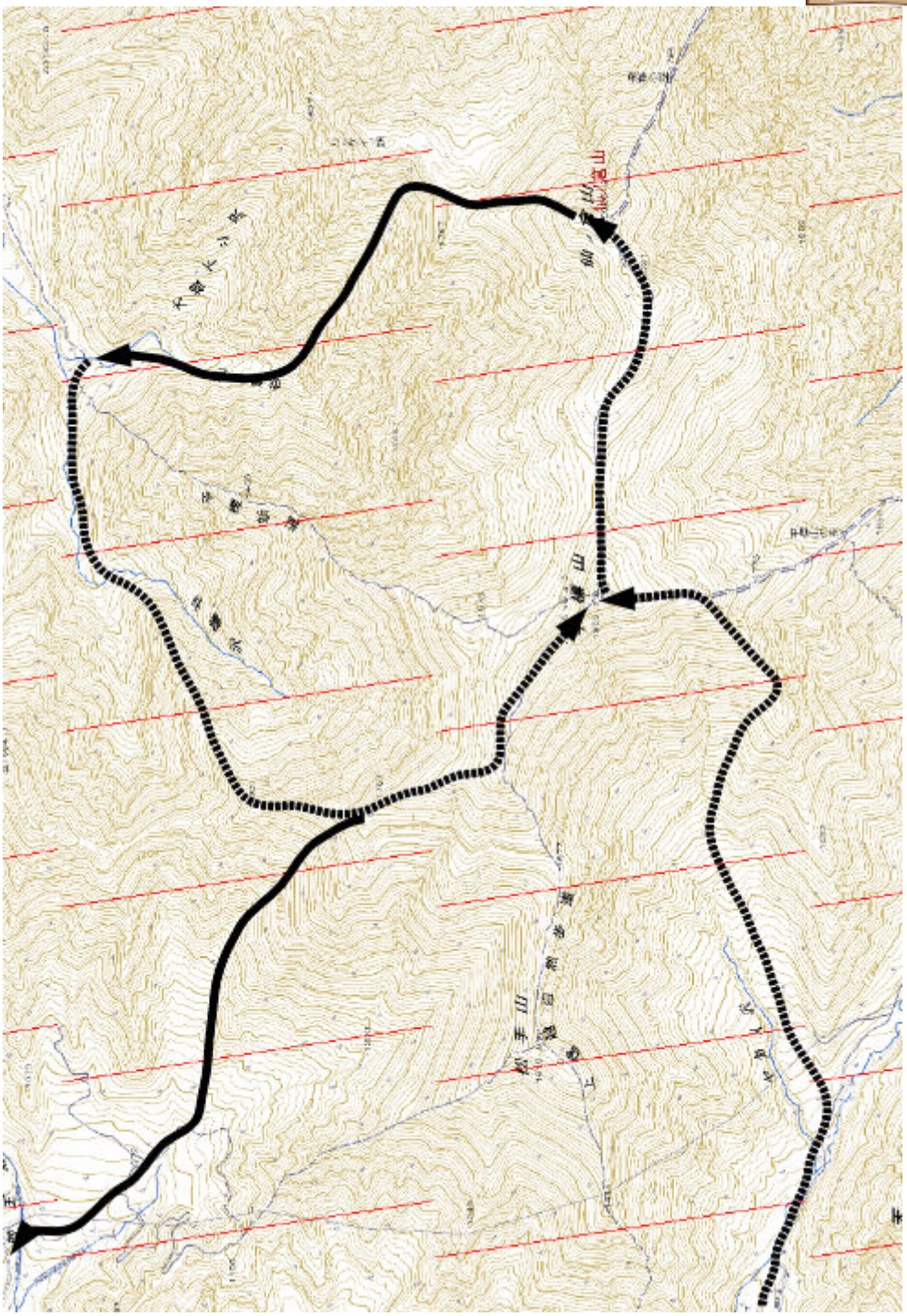
後半は最中雪となる。斜度が緩んできているので、転んでもすぐに止まるが、ターンする度の転倒には、さすがに嫌気がさす。最後はベタ雪となり、今日の雪の中では一番まし。林道に出合い、鈴木Pの付けたトレースを辿り、二居へ。

【地形図】三国峠、土樽

【行程】

1日目：元橋(8:22)～平標山(12:03)～仙ノ倉山(1:31/1:52)～平標沢出合(2:51)～平標沢1000m地点BP(4:10)

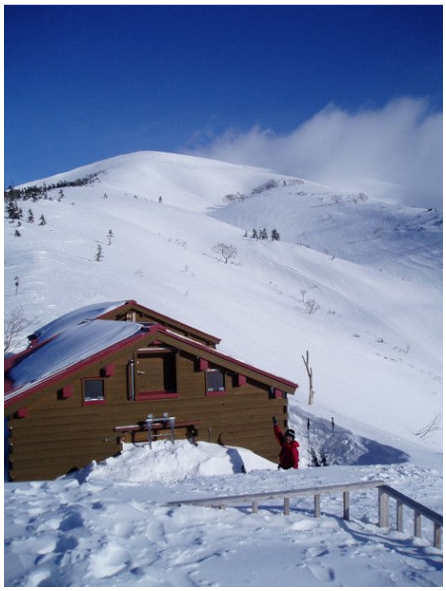
2日目：BP(6:45)～主稜線1582m(9:30)～平標山(11:00/11:20)～二居(2:12)



会山行Ｃパーティ　笹穴沢源頭＆仙ノ倉山シッケイ沢山スキー

石井　幸志

【日時】2010年3月13日～14日
【メンバー】石井（L）、木下


ようやく平標が見えた

数ある谷川連峰の山スキールートの中でも白眉とされるシッケイ沢。メジャーすぎるルートのせいか、木下さんも私も未滑降、会山行で初トレースと相成った。

元橋の別荘地の除雪終了点までＡパーティーに送ってもらい、Ｂパーティーと共にスタート、雪の量は１ｍ程度なので例年より少な目か。林道を奥まで辿り、平標小屋へ向かう夏道の付いている尾根の一本西、1776へ続く尾根に取り付く。先週のものと思われるトレースを追ってシールで登り上げるが、ヤカイ沢左岸尾根よりも幾らか斜度が緩いくらいのブナの尾根で、概ね順調に高度を上げる。尾根が細くなると主稜線に合流し、右手にトラバースしたところで少し下に小屋が見えた。小雪が舞ってはきたが、視界のあるうちに小屋までひと滑り。

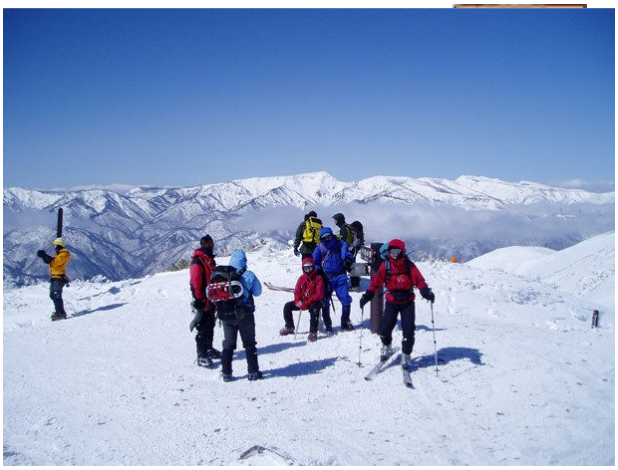
二階の冬季入口から入ると中は真っ暗だったが、中から雪囲いを除ければ明かりも取れ、水もトイレも得られる快適な小屋であった。午後からひと滑り、と思ってはみたものの、視界も無くなってきたので結局そのまま宴会、昼寝を決め込んで、のんびり小屋ライフを堪能してしまった。

笹穴沢源頭を滑る

翌朝も早くから起きてはみたが風がなかなか収まらず、外に出たのは8時近かった。集中までの時間を考え、平標の肩まで登り、笹穴沢をひと滑りすることにする。まだ雪面も堅めではあったが、ガスから現れた白一色の世界と緩いスロープに気は逸る。標高差にすれば200ｍ程度ではあったが、雰囲気を楽しんで

から主稜線にトラバースして小屋へと戻った。

小屋を閉めてから平標へと再び登り返す。途中で仙ノ倉北尾根を登ってきたDパーティーと合流、山頂に近付くにつれ、各パーティーの面々が徐々に集まってきた。11:15に渡辺さんが到着し、快晴の元6パーティーが集中、歓喜を分かち合えることができた。



平標山に続々集結するメンバー

さて、我がパーティーはここからが核心、仙ノ倉山を覆っていたガスも取れたので、ようやく先へ進む気になれた。鞍部までひと滑りし、あとはスキーを括りつけてアイゼンで稜線を行く。強風の山頂を経て、ハイマツ帯の急な北尾根上部を100m程度下降してからスキーを履く。

シッケイ沢上部の滑降

しばらくは雪面も堅めで少々緊張しながらの滑り、傾斜が緩んだ1700m付近で万太郎山のパノラマを前に一服して態勢を整える。それからシッケイ沢の中程までは斜度も雪質も申し分なく、この時期らしからぬ快適そのものの滑降だった。さっきまでガスが山を覆っていたせいか、部分的にパウダーも残っており、歓喜の声を上げてシュプールを刻んでいく。沢型に下りると気温の上昇もあって雪は重くなり、背中の泊まり装備とでさすがに足にきたが、それでも振り子滑りを楽しめた。

毛渡沢に出てからは先行パーティーのトレースを追い、徒渉も交えながら右岸、左岸と下っていく。植林地へと左岸を少々登り返し、仙ノ倉谷を吊橋の上流で徒渉すれば、あとは良く踏まれたトレースを滑るのみ。毛渡沢橋でDパーティーのデポした車を回収し、首尾良く皆の集まる岩の湯へと向かった。

【コースタイム】

3月13日　元橋除雪終了点（8:25）－尾根取付（9:25）－平標小屋C１（11:00）

3月14日　C１（7:55）－（平標山肩より笹穴沢源頭滑降）－C１（9:45）－平標山（10:50/11:20）－仙ノ倉山（12:15）－毛渡沢出合（13:30）－毛渡沢橋（14:50）

【地形図】1:25000三国峠、土樽

会山行Ｄパーティ　谷川　　仙ノ倉山北尾根

長谷川

【日時】　2010年3月13日（土）～14日（日）
【メンバー】L棚橋、國田、長谷川

ひさしぶりの会山行ということでテンションがあがっていた。行きの前夜泊や集合等やっぱりみんなで行くのは楽しいものだ。まともに歩いていなかったので不安はあったが、頂上集合を目指して頑張ることにしよう。

親切な方に入山口まで一部人と荷物を車に乗せてもらい、そこから栗原パーティに続いて出発する。低気圧の接近の前だからか、気温が高い。1・2 月に比べると雪は相当に少ないらしく、途中でワカンを付けたが、少し潜るくらいで順調に進む。群大ヒュッテ手前で日白山に向かう栗原パーティと別れ、核心と言われる吊橋に到達する。周辺で渡渉できそうなところはないが、吊橋のワイヤーは雪面からちょうど 1m ほど真下にあり、ザイルなしでは怖い。結局棚橋さんが 5 分ほど先で安全に渡渉できそうな場所を見つけたので、足を濡らさずに渡渉できた。

渡渉も終わって休憩を取っていると小雨がパラパラと降ってきた。気温が高いので寒くはないが、早く登って雪に変わって欲しいものだ。尾根に取りつきラッセルが始まる。雪は膝に達しないくらいの深さである。最初は頑張れるが、段々と足が重くなる。最近山に行くといつもこうだが、息は切れないが足が重いのは何故なのか、、、。棚橋さんに先頭を長くおまかせしてしまう。やっと小屋場の頭を越えるが、風はそれほどないが徐々に視界が悪くなってきた。北東の尾根と合流した後、大きく方角を南西にかえる。この辺から二人についていくのがやっととなる。シッケイノ頭までは意外に遠く長いがしばらく先も特に危なそうなところもない。

しかし、シッケイノ頭の手前の雪壁の急登でつい登り過ぎたのをトラバース気味に修正しようとした際、1・2m 滑ってしまった。幸い下を良く見ていたので灌木につかまってことなきを得たが、2・30cm の柔らかい雪面の下に少し硬い雪面があり、ステップの切り方の甘さとダンゴ上になってしまったアイゼンがあだとなった。ちょっとビビってしまったが、棚橋さんの指導でその後はバイルも出し、2 本のシャフトを雪に挿しながらアイスの練習を思い出しながらトラバースし、その場をなんとか越えた。スリップしたのは明らかに自分の経験と技量不足によるが、ここではなんとなくだがアイスを今シーズン初めて本当によかったと思えた。

シッケイノ頭は目前だが、かなり体力を消耗し、二人に少しずつ引き離されていく状態となってしまった。國田さんはガッツがあり棚橋さんに負けじとついていく。ようやく着いたシッケイノ頭はだだっぴろい所で風がそれなりに吹いてきたが、避けられそうなところもなく、適当な所にテントを張る。

雪もあまり払えなかったが、滑りこむようにテントに入った。これから楽しい宴会となった。今回は雪袋から雪を取りだして鍋に入れる係（通称：雪係）を國田さんがやってくれたので私はかなり気分を楽にして軽い眠りに入ってしまう（今までは、雪袋から雪を取ろうとコッヘルを入れた瞬間に眠ってしまう等問題があった）。ひと眠りした後、宴会も盛り上がり、夜が更ける。

仙ノ倉山山頂にて

りよくないが、出発する。後は頑張るのみであった。視界も徐々に出てきたころ、仙ノ倉山山頂にやっと着いた。そのまま平標目指して進むが、平坦ではあるがダラダラ長い。ようやく集合場所の平標山頂に到着。集合には早いがみんなを待つにはあまりに寒いので、石井パーティが待つ、平標山の家まで一端下ることとした。休憩した後登り返してみんなで集中。やっぱり嬉しいものです。下山は山の家の西の小尾根を下った。

今回はリーダーに頼りっきりなど反省点が多かったです。ですが私にとってはひさしぶりの会山行でもあり楽しく充実した山行でした。

（以下：リーダー・メンバーの所感）

お二人が、「雪稜＝ロープを使用する山行」と捉えていたとしたら、不満足な結果となってしまったかも知れません。しかしご存知の通り、積雪期は天候や雪の状態に依り不確定要素の高い山行が強いられ、また難しい判断が求められることもしばしばです。今回の山行を一つの機会として、より良い山行を目指して頂ければ幸いです。（棚橋）

入会して初めての雪稜でしたが、体力に余裕がなくラッセル出来なかったことは、お二人に申し訳なく思います。1日目は、ほぼ1日中ガスっていて視界が無かったので、切り立った箇所でも怖さを感じずに済みました。2日目は、朝から暴風でしたので、その中でのテント撤収を体験出来ました。今回の反省点は、雪稜なのにヘルメットを忘れたことと、強風の中で出発に手間取りお待たせしたことです。でも、平標山で皆さんに出逢えた時は、やはり感動しました（國田）

【行程】3/13　毛渡橋(7:05)～群大ヒュッテ(吊橋)付近(8:50/9:09) ～小屋場ノ頭(11:18)～シッケイノ頭C１(15:06)

3/14　C１(7:10) ～仙ノ倉山(8:30) ～平標山(9:48/53) ～平標山の家方向Co1800地点(10:15/35)～平標山(10:55/11:18) ～平標山の家方向Co1800地点(11:26/36) ～林道(12:28/41)～元橋(13:30)

【地形図】土樽、三国峠

会山行Ｅパーティ　長釣尾根～平標山

齋藤

【日時】2010年3月13日～14日
【メンバー】　栗原Ｌ　齋藤(良)　福永　金沢

3/13日（土）曇りのち小雨
　天候を気にしつつ、仮眠の土樽駅より棚橋パーティと駅の番人（？）さんの車と２台で林道の入り口まで向かう。
　林道入り口にてカンジキを着け、8:00頃出発。棚橋パーティも途中の尾根取り付き地点まで同じ行程だ。尾根末端に9:00頃到着。おそらく今回山行での一番苦しい登りになるだろうと覚悟して登り始める。
　気温が高めのせいか、カンジキを着けても思った以上からだが沈む。標高が上がるにつれ、小雨模様になり、やがて雪に変わってくる。
　日白山に近づくにつれ、福永の体調が思わしくない様子。リーダー共々気にしつつも、リーダーと金沢の力強いラッセルで徐々に高度を上げる。12:00過ぎ頃日白山への尾根へ到着。体調を整える為、福永は待機ということで、3人で日白山山頂へ。15分位で頂上へ着き、写真を撮るも、あたりはガスでまっ白。これでは証拠にならないか…。
　福永と合流後、13:00頃、幕営予定地へ向かう。気になっていた崖マークの下降も、北西側は樹林帯状態で不安なく通過。16:00頃下り切った最低鞍部に予定通り幕営地を確保する。
　テントに入り、一段落した頃には福永の体調も回復してきたようで、おいしい夕食を作ってくれた。夜半かなり風の音が凄かったが、樹林に囲まれたような位置に設営した為、風の影響をほとんど受ける事も無く、快適に眠る事が出来た。

3/14日（日）晴れ
　7:00天場を出発。標高が上がるにつれ、風が強くなる。リーダー栗原のスピードにうながされる様に何とか皆（特に私）付いて行く。福永も体調が戻った様でしっかりした足どりだ。
　頂上近くになるにつれ、さらに風が強くなるが耐えつつ黙々と登る。
　10:00過ぎ頃、平標山頂へ到着。集中の11:00にはまだ時間があるので、先行パーティ同様我々も頂上より少し下った場所に風よけに雪を掘り、フライをかぶって待機する。程なく、他のパーティも集まりだしたので、再び頂上へ。そこで集合写真

を撮り、各パーティそれぞれ下山のコースへ向かう。我々のパーティは、棚橋総リーダーのアドバイスに従って、当初予定していたルートを変更し、夏道ルートの尾根より一本頂上よりの尾根にて下降する。

13:00頃無事林道に出、さらに30分位歩いて車のデポ地点へ着いた。

今回の山行については、ルートの長さと自分の体力の衰えを考えると、正直な所、少々不安があったのだが、山行前2週間の体力トレーニングと栗原リーダーの「気持ち」に引っ張られた感じで、何とか予定通りのコースを予定の時間内に歩くことができた。おそらく、会山行という形でなかったら参加できなかったのでは、と思う。プランを練ってくれた担当者達の苦労に感謝します。栗原リーダー、金沢君、福永さん、御苦労様でした。おかげさまで久し振りにキチンとした山歩きが出来ました。

【行程】3/13　土樽8：00～長釣尾根末端9：00～日白山12：00　～鞍部16：00ｃ1
3/14　ｃ１　7：00～平標山10：15-11：15～駐車場13：30
【地形図】土樽・三国峠

日帰り歩きで間に合った！

会山行Ｆパーティ　　上信越　　平標山

大田原

【日時】　2010年3月14日（日）
【メンバー】L大田原、山口、高橋

日帰り歩きの本パーティー。平標山頂11時集合というキビしい指令を受け、山頂集合はちょっとキツイなというのが正直な予想だった。前夜、突如熱発した飯田さんが抜け、3人パーティーで現地へ向かう。

日帰りスキーの横山さんらと相談し、7時出発で行けるところまで頑張ることにする。ところが、高橋さんが今日は特に体調が悪いとのこと。ある程度歩いてみて判断するとのことで、とりあえず元橋を出発する。別荘地奥の林道へ踏み込むと、スキーのトレースがしっかりついており、雪も締まっていてとても歩きやすい。そのままヤカイ沢へと踏み込む。雪の状態次第では左岸尾根に早々に乗ってしまうのがいいかと思っていたが、ちょこちょこ足が潜るものの総じて締まっているので沢の中でも歩きやすい。段々天気がよくなり、青空の下の山頂がきれいに望めた。前後にはスキーのパーティーがゾロゾロいる。緩やかな登りが終わり、そろそろ左岸尾根に上がろうかというころ、高橋さんが引き返すことに。パーティーを分けるのは気が進まないので、3人で戻ろうかと思ったが、高橋さんの勧めに従い、山口さんと二人で山頂を目指すことになった。体調の悪い高橋さんを一人にするのは気が引けたが、足取りは確かな後姿を見送り、山口さんと再び登り始めた。しばしの急登をこなせば、左岸尾根1700m付近のハイマツ帯に出た。そこからはしっかり締まる雪上を稜線漫歩である。無線交信で他パーティーの仲間と近いことを知り、ますます足は速まる。山頂が見えるようになると次々と合流でき、なんと集中時間に遅れることなく山頂を踏むことができた。高橋さんや飯田さんが一緒に集中できなかったのは非常に残念だったが、パーティーとして集中に成功したのはよかった・・・のかな。賑やかな集中のあとは、もと来た道を辿って元橋へと帰り着いた。

【大展望の稜線を歩く山口さん】

【行程】元橋（7:05）～ヤカイ沢～ヤカイ沢
　　左岸尾根1700m付近（10:00）～平標山（10:55/11:15）～元橋（13:00）
【地図】三国峠

快晴快走快滑

会山行Ｇパーティ　# 平標山ヤカイ沢山スキー

横山

【日時】　2010年3月14日（日）

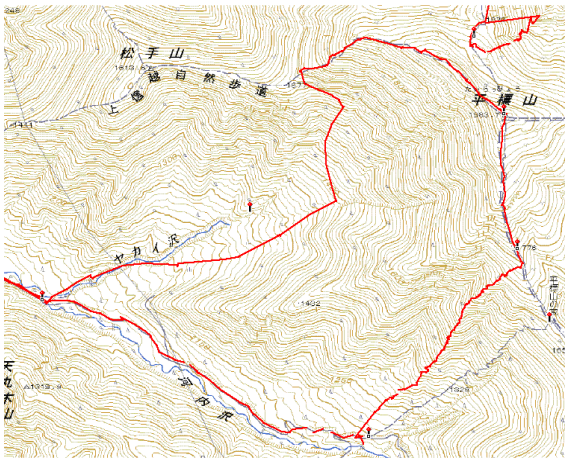
【メンバー】横山　渡辺

日帰組はメンバーの都合により、歩行３名とスキー２名となった。事前情報と前日通過した石井さんとの無線交信により、トレースを辿り、林道から平標山の家上を尾根ルートを取った。尾根上はカリカリでシールが利かす、ほとんどシートラであった。思うように進むことが出来ず、10時の交信時にはまだ尾根上におり、集合時間にはちょいと厳しい状況に・・稜線に出てみると、何とかなりそうな感じがしたので、スキーを履き直し急いでピークに向かう。手首のGPSが頂上まで距離と速度を見ながら到着時間を計算するが、間に合いそうもない。「10分待ちます」の無線交信によりダッシュを掛ける。待っててくれてありがとうございます！

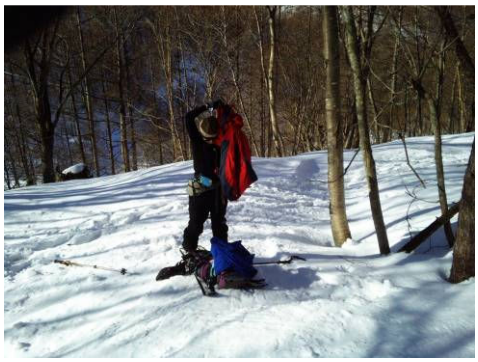
頂上では待ってもらったけど、こっちはスキー。先に温泉いっちゃおっ～と。待ってもらった恩義はすっかり忘れて下降開始。しかし、ヤカイ沢上部は急斜面の上、カリカリ。シーズン初スキー状態の２人には突っこむ気合いなどあろうはずもなく、緩斜帯まで尾根を歩いて下る。やがて気温も上がり、快晴の中、概ね快適な滑りを楽しめた。駐車場につくと既に歩き隊は後片付けをしていた。

☆渡辺さんのコメント

今シーズン初めてのシール歩きとなってしまい、カリカリの斜面と稜線での強い風に悩まされながらも晴天の下、みんなの待つ頂上にたどり着けたときはほっとした。寒い中、長く頂上で待っていてくれた皆さんには感謝です。



「平標山」上のログは昨秋西ゼン遡行時のもの



林道終点にて、ここからほとんどダッシュ！？

【行程】3/14　元橋トンネル横Ｐ（7:20）⇒林道終点（8:30）⇒平標山の家上（10:30）⇒平標山頂（11:15）⇒松手山手前稜線（12:30）⇒元橋Ｐ（14:30着）